

信仰の忍耐 (11:1~3) と「旧約の聖徒たちの手本」の概観

■ヘブル人への手紙の構成

二つの主要な区分	内容	箇所	警告
第一区分： 神学的理論を中心に (適用としての警告 も含む) <u>ユダヤ教の三本柱</u> と 御子との比較	テーマ	1:1~3	
	<u>天使たちに優る御子</u>	1:4~2:18	警告① 2:1~4
	<u>モーセに優る御子</u>	3:1~6	
	第二の警告	3:7~4:13	警告②
第二区分： 適用(御子の優位性を 理解した上での、信者 の歩み)	<u>アロンに優る御子</u> (レビ族アロンの家系の祭司 職に優る御子)注①	4:14~10:18	警告③ 5:11~6:20
	勧めのための2つの基盤と4 つの勧め、警告、励まし	10:19~39	警告④ 10:26~31
	旧約の信仰者たちの生き方を 手本とする	11:1~40	
	信仰を持ち続けることの勧め	12:1~29	警告⑤ 12:25~29
	まとめとしての勧め	13:1~25	

注① レビ族アロンの家系の祭司職 ⇒ 以下、「レビ系祭司職」

■11章の全体像 4つのポイント

- 旧約の聖徒たちは、信仰を発揮した。
 - よって、信仰から離れるということは、旧約の聖徒たちから離れることである。
- 直前の箇所、10:35~39で、著者は読者たちに忍耐を発揮するように勧めた。
 - この11章では、著者は旧約聖書から多くの実例をあげて、いかにして旧約の聖徒たちが忍耐を発揮してきたかを示す。
 - 旧約の聖徒たちは、忍耐によって戦いに勝利した。
 - 従って、読者たちも同じように、忍耐によって戦いに勝利しなければならない。
- 6:12では、次のように著者は書いた。「あなたがたが怠けずに、信仰と忍耐によって約束のものを相続するあの人たちに、ならう者となるためです」。
 - 「あの人たち」とは、旧約の聖徒たちである。
 - 著者は、6:13~15では、アブラハムひとりに言及した。
 - 11章ではアブラハムを含めて多くの旧約の聖徒たちを取り上げ、読者たちがならうべき実例を説明する。
- 11章におけるキーワード
 - 「信仰」ππιστες
 - この原語は、11章の中で、24回、使われている。

■「旧約の信仰者たちを手本とする」11章の構成

細目	内容	箇所
信仰の忍耐	信仰の特徴	1節
	このような生き方が可能であることを実証した人々がいる	2
	目に見えないものを確信する事例＝天地創造	3
族長時代以前	アベル	4
	エノク	5～6
	ノア	7
族長たち	アブラハム	8～19
	イサク	20
	ヤコブ	21
	ヨセフ	22
荒野の旅	モーセの両親	23
	モーセ	24～28
	イスラエル民族の人々	29～30
	ラハブ	31
試練の中で	イスラエル国史に見る信仰(士師たち・王たち・預言者たち)	32～34
	信仰は死を乗り越える	35～38
信仰の勝利		39～40

■信仰の忍耐(11:1-3)

1. 1節 「信仰は」＝信仰とは～である。著者は、信仰の特徴について語る。
 - (1) 著者は、ここで「救いをもたらす信仰」について語っているのではない。
 - ① 救われた人が信仰を発揮するとき、その信仰はどのように働くのか
 - ② 信仰を持つと、将来のこと・目に見えないことに対してどう向き合うのか
2. 1節 信仰とは、「望んでいる事からの保証」である
 - (1) 「望んでいること」＝期待や希望をしていること。これらは、将来のこと。
 - (2) 「保証」ギフポスタシス＝本質(1:3)・実質・保証、確信(3:14)
 - (3) 将来のことは、信仰によって、確かなものとされる
 - ① 信者のすべての希望を伴う将来は、まだ実現していない。
 - ② よって、今の時点では、忍耐が必要であり、信仰の働きの第一は、忍耐である。
 - ③ 信仰者は忍んで耐えて、神の時が来ると、望んでいることを手に入れる。
3. 1節 信仰とは、「目に見えないものを確信させるもの」である
 - (1) 「目に見えないもの」
 - ① 物質界とは別の世界のこと、霊の世界のこと
 - ② 物質界のことでも、人が見たことのない過去のこと(その主要な例は、「天地創造」。3節で触れる)
 - ③ 今はまだ現れていない将来のこと。
 - (2) 「確信させるもの」ギエレゴス＝証拠・証明・保証、(客観的な証拠に基づく)自信・確信・説得力
4. 信仰者が確信していることとは何か

- ① 今は目に見えないが、しかし現在、現実として存在するもの
 - イエスが大祭司としての働きをしておられること
 - 信者は祈りにおいて神に近づくこと
 - 霊的成熟（信仰において前進するならば霊的に大人になること）
 - 罪の完全な赦し
 - ② 今は目に見えないが、しかし将来、現実として登場すること
 - メシアの再臨
 - メシアの王国
 - メシアの王国での信者の報いと地位
 - 永遠の秩序（新しい天と新しい地、天の都エルサレム（12:22））
5. 1節のまとめ
- (1) 人が実際に経験している領域の外側にも、目に見えない現実の世界がある。
 - (2) そういう目に見えない現実の世界があることを証明し、保証するのが、信仰である。
 - (3) 「信仰者は、信仰によって生きる」とは、言い換えれば、「目に見えない現実の世界があることを証明するような生き方」である。
 - (4) 将来のこと、望んでいる事がらも目に見えないけれども、信仰者は、それらのことをすでに「現実である」と確信している。こういう生き方が、神に喜ばれる（6節「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。」）
6. 2節 こういう生き方が可能であることを、「昔の人々」、すなわち旧約聖書に記された聖徒たちは、自らの人生によって証明した。
- (1) 「この信仰によって」 原文は「よって、そこに」
 - ① 「そこに」とは、1節のまとめで説明したような信仰の捉え方を指す。
 - ② 昔の人々は、そのような信仰をもって人生を送ったということ
 - (2) 「称賛を受けました」 原文は「証人を得ました」
 - ① ここの文型は、受動態
 - 他の人々が、旧約の聖徒の人生の歩みを見ていた。すると、見ていた人の中から、「あの人の信仰はこのようであった」と証言する証人が登場した。・・・というようなニュアンスの文型。
 - 旧約の聖徒たちが、「自分の人生を通して、信仰者とはこう生きるのだと示そう。」といった目標をもって生きたわけではない。
 - ② 確かに彼らは、目に見えないことを、現実としてそれを見ているかのような生き方をした、と他の人から認められた。
 - ③ 誰が認めたのかは記されていないが、最終的には神。
7. 3節 目に見えないことは信仰によって受け取られる。そのことの代表的な事例は、「天地創造」である。
- (1) 「創世記」は、モーセ五書のひとつ。しかし、天地創造のときには、モーセはもちろん、人間は誰一人目撃した者はいない。
 - (2) 神による天地創造があったとすれば、人は創造者なる神の存在を認めなければならない。生まれながらの人が天地創造を信じたくないのは、神を信じたくないからである。
 - (3) この世界は神の「ことば」によって造られた
 - ① 「この世界」=複数形。物質界のみならず、その物質界が展開していく時間的

要素も含み、「時代時代」とも訳せる。

- ② 神の「ことば」**ギ**レーマ=発音されたことば。
- ③ 信仰者は創造を見てはいないが、それを信仰によって信じる。その基盤は、書かれたことば、聖書である。それがなければ、人はどのように天地創造がされたのか、知ることはできない（ヨブ 38:4）
- (4) 信仰は未来に向かって目を向けるばかりではない。後ろをも振り返ることがある。
 - ① 天地は、神によって創造された、と信じる。
 - ② 天地創造は、神が存在することの証明である、と受け取る。
 - ③ よって、信仰者は、神を見たことはなくとも、神が存在することを信じる。
- (5) 信仰が、過去にあつて目に見えないことについて働くのなら、同様に、将来のことでもまだ目に見えないことについても必ず働く。
 - ① 神の約束は、必ずそうなる。
 - ② 従って、今、信者に求められることは、信じて待つことである。
 - ③ 信仰の忍耐こそ、神の約束を受け取る条件である。

■ 「旧約の信仰者たちの手本」の概観

手本となる生き方	内容	箇所	
神の定めた方法によって、神に近づく	アベル（創 4:2~8、マタ 23:35）	4	
神のことばを伝える 世からは拒絶される	エノク（創 5:21~24、ユダ 14~15）	5~6	
神の命令に従順に従う 世を罪に定める	ノア（創 6:1~22、IIペテ 2:4~5）	7	
生まれ故郷を離れる	ア ブ ラ ハ ム (使徒 7:2~5、創 11:31~12:7)	8	
寄留者となる		(創 13:18、22:19、23:4、24:67、25:27)	9
		(創 24:7)	10
不可能でも子が生まれる という約束を信じる		(創 17章、ロマ 4:17~22、創 18:1~15)	11~12
目前の土地ではなく、 より優る国を求める			13~16
イサクを捧げることを 通して、復活を信じる		(創 22:1~18)	17~19
未来について、神の約束を信じる	イサク（創 25:21~34、27:1~40、28:1~5）	20	
	ヤコブ（創 47:28~48:20）	21	
	ヨセフ（創 50:22~26）	22	
神のみこころを受け取ったとき、信仰によって決断し、実行する	モーセの両親（出 2:1~2）	23	
	モーセ（出 2:3~15）	24~26	
	モーセ（出 2:15~25、3:1~13:16）	27~28	
	イスラエルの民（出 13:17~14:31） （ヨシュ 1:1~6:21）	29 30	
	ラハブ（ヨシュ 2:1~24、6:22~25、マタ 1:5）	31	

手本となる生き方	内容		箇所
試練の中で、信仰による <u>勇気</u> を発揮した	イスラエル国史に見る信仰(士師たち・王たち・預言者たち) 士師たち : ギデオン、バラク、サムソン、エフタ 王たち : ダビデ 預言者たち : サムエル		32~34
国家的勝利を得た	国々を征服した	ヨシュア、士師たち、ダビデ	33
	正しいことを行った	ダビデ、サムエル	
	約束のものを得た	ギデオン、バラク、ダビデ	
個人的救出を体験した	獅子の口をふさいだ	ダニエル、サムソン、ダビデ	34
	火の勢いを消した	ダニエルの3人の同僚たち	
	剣の刃をのがれた	モーセ、エリヤ、エリシャ、エフタ、ダビデ	
個人的な賜物を発揮した	弱い者なのに強く	ギデオン、サムソン、ダビデ	
	戦いの勇士となり	ヨシュア、バラク、ダビデ	
	他国の陣営を陥れた	ダビデ、ヨシャパテ	
信仰は <u>死を乗り越える</u>	<p>女たちは死んだ者をよみがえらせてもらった 【I列17:8~24、II列4:8~37、ルカ7:11~17、ヨハネ11:1~44】 (これに対して)</p> <p>ほかの人たちは、<u>さらにすぐれたよみがえり</u>を得るために、釈放されることを願わないで・・・</p>		35~38
ほかの人々は、死に至るまでの信仰を示した	あざけられ、むちで打たれ	エレミヤ エレ20:2	36
	鎖につながれ、牢に入れられる	ヨセフ	
	石で打たれ	ゼカリヤ II歴24:20~22	37
	のこぎりで引かれ	イザヤ	
	試みを受け	ヨセフ	38
	剣で殺され	ウリヤ IIサム11:14~25、12:9	
	羊とやぎの皮を着て歩き回り	エリヤ II列1:8	
	乏しくなり悩まされ苦しめられ	預言者たち	38
	荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよった	オバデヤ I列18:3~6	
	この世は、彼らにふさわしい所ではなかった		
11章全体の結論 信仰の勝利	旧約の聖徒たちは、約束のものをまだ受け取っていない。約束の成就是、未来のこと。		39
さらにすぐれたもの 【メシア王国】 を、受け継ぐ	旧約の聖徒たちが待たされる理由は、私たち新約の聖徒たちといっしょに受けるため。同時に、私たち新約の聖徒たちは、旧約の聖徒たちの忍耐を手本として、忍耐をもって信仰生活をするため。		40